家庭で
できる

冬のやけど事故予防

冬季は暖房器具等によるやけど事故が多く起こります。
乳幼児がいる家庭での注意点を再確認し、事故を未然に防ぎましょう。

やけどの予防

◆ストーブ・ファンヒーター

本体に直接触れたり、温風吹き出し口に手を入れてしまったりしないように
ストーブガード（安全柵）で囲うなど、こどもが近づけないようにしましょう。

◆加湿器・炊飯器

蒸気に興味を持ち、吹き出し口に触れてやけどすることも。
こどもの手が届かない場所に置きましょう。

◆高温の汁物や飲み物

こどもが電気ケトルのコードやテーブルクロスを引っ張ったら、熱湯を
浴びてしまうかも！ 手が届かないようにすることはもちろん、こどもが
つかまったり、引っ張ったりしそうなものの使用は避けましょう。

熱くなくてもやけどする！？ 低温やけど

「やけど」は、熱湯や高温のものに触れた場合に限りません。
比較的低温（約40～50℃）でも生じることがあります。

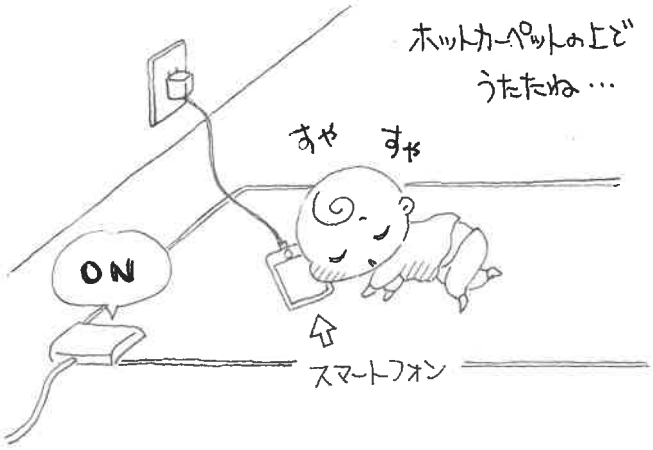
高温なものに触れた場合と比べて、熱さや痛みを感じないため
気づくのが遅れ、長い間、熱源に触れたままになることが一因です。

表皮ではなく皮膚の奥まで損傷するため、皮膚の薄い場所によっては
重症化することも！ こどもは大人に比べて皮膚が薄いので、より一層の注意が必要です！

低温やけどになる温度と時間

44℃：3時間～4時間
46℃：30分～1時間
50℃：2分～3分

〈消費者庁公式サイトより〉



《低温やけどを起こしやすいもの》

ホットカーペット、こたつ、使い捨てカイロ、湯たんぽ、
電気毛布、スマートフォン、ノートパソコンなど

《低温やけどを防ぐための注意点》

・長時間同じ場所を温めない
・熱源（暖房器具など）を、直接、肌に当てない

※眠っている時は、特に注意しましょう

気をつけて！ 就寝中のスマホ充電

大人も
気をつけて！

目覚まし時計代わりに枕元に置いたスマートフォン……低温やけどの危険が！
起動状態のまま充電していると、状況によって、表面温度が50℃を超えることもあるそうです。
からだに継続して接触しないよう、置き場所に気をつけましょう。